

法政大学第一高等学校同窓会報

(題字は小川前校長)

本会は母校の発展を願う卒業生が相互の親睦をはかり連絡を密にし、互助の実をあげることを目的とする。
(規約第2条)

編集人 黒澤允孔 (同窓会・広報委員長)
発行人 大石勝康 (同窓会・会長)
発行所 法政大学第一高等学校同窓会
印刷 社会福祉法人・東京コロニー

1998年(平成10年)4月25日(土)〔発行〕第23号
〒180-0002 武蔵野市吉祥寺東町3-5-7 ☎0422-20-8151
大田福祉工場 発送管理 コミナミ印刷株式会社

全法政21世紀への展望

ますます重要な付属校へ

同窓会会長 大石 勝康



大石会長

平成十年四月、新年度を迎え会員の皆様にはますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、只今、法政大学では21世紀を目指しての改革が着々と進行しております。

清成総長は、経営改革、学内システムの改革を行うと同時に、21世紀を展望した法政大学のヴィジョンを「開かれた法政21」として、歴史的な社会変動に対応し教育・研究の両面で大学を外に開き、知的人材の育成に取組んでいかなければならない。そのためには幅広い知的創造活動が不可欠であり、「個人の自立」が

きわめて重要になる。個人が継続的学習に取り組まなければならぬという意味では、「生涯学習時代」に突入しつつあると述べられています。また、この教学改革の中に

は「大学と付属校の関係のあり方」が重要案件として取り上げられ、付属校代表として小川校長先生がその審議会に出席され付属校の役割りと提議力を飛躍的に高めていただきました。

このように一高を初め付属三校にとっては、きわめて重要な時期であります。我が一高の小川校長先生がこの三月末日をもって定年を迎えられご勇退なされることになりましたのは、まことに惜別の思いで一杯でございます。

小川校長先生は一高に四十二年間お勤めいただき、平成五年四月から今日まで五年間校長先生として、一中高の教育全般を充実発展され十二分にその成果を上げていただきました。特に大学への推薦問題では八〇%、八五%と推薦率を高められ、平成九年度からは有資格者は全入推薦になるという中・高・大への一貫教育への基盤を作り上げられたことは特筆されるべき功績で、そのご努力に對しまして心から厚く御礼を申し上げます。

校長退任にあたって

一中・高校長 同窓会名誉会長 小川 純一郎



小川純一郎先生

る次第でございます。本当にありがとうございました。同窓会の今後の運営につきましては、地道に次の諸事項の遂行を図ってまいります。

三、会報の定期発行と内容の充実(どんなに少人数の会合でも活動でも結構です。同窓会事務局に原稿・写真をお送り下さい) 今後同窓会の発展に努力を重ねてまいります。会員の皆様のご協力、ご支援を切にお願い申し上げます。

今まで以上に同窓会の会員の方々のお力をお借りしなければならぬと思います。

中学時代、高校時代は子供から大人になる時期で、精神的には、フランスの思想家ルソーが言っておりますが「暴風に先立って、早くから海が荒れ騒ぐような危機の時代」であります。

人間は二回この世に誕生すると言われます。「一回目はこの世に存在するために、二回目はこの世に生きるため」です。

中学から高校時代は、人生の「第二の誕生」の時期にあたるのです。

この世にただ存在することから、自分自身が主人公になり、他人に動かされるのでは

なく、自分の力で人間らしい生き方を作り、大人への「旅立ち」をするときです。

子供は精神的に親離れをする時期ですから、親も子離れをしなければなりません。

本校の校風の「自主・自律」の精神を身につけ、自らの可能性を自らの手によって伸ばせるように教育をしていくことが大切です。

また、人間は、自分の夢や目標を持ち、その実現に向かって努力し進むとき、もつとも人間らしく成長できるものです。

すべての生徒にしっかりと学力、広い教養を身につけさせ、身体を鍛え、強靱な精神力と豊かな感性、正しい社会のモラルを確立させ、国際的な視野に立って、将来どのような進路に進んでも、一人立ち出来るような人間になれたいことを目指して教育を行なうことを願います。

そのために、生徒を原点に置き、生徒と教職員の信頼関係、父母と教職員の信頼関係、家庭においては両親と子供の信頼関係をしっかりと結ぶことが大切です。

法政大学第一中・高等学校の発展を願って退任の辞いたします。

校長就任にあたって

一中・高校長 山上 英男



山上新校長

このたび思いがけなくも教職員の方から推され、校長という重責を担うことになりました。卒業生の皆様には、この紙面をお借りし、つつしんで挨拶申し上げます。

私は一九六〇年、法政一中高に奉職し、今年選任を迎えました。改めてその年月の長さに驚いています。

ところが、いまだに若いつもりで、ムキになって生徒と衝突したり、ヘマをしてはかかわれたり、いつこうに、その年月に見合った年輪と違ったものを身に刻んでいない始末です。

ただ、これもまた自分の持ち味かもしれないと思いついてもいます。

そう思い返せるのは、昔、穂高山麓で、女子校の校長になられたばかりの平井豊一先生に偶然お会いし、その際、「行政手腕より、生徒に向き

合い、生徒を可愛がることだよ」と中村哲先生から励まされたというお話を伺ったことがあり、それを、ふと思いついたからでした。

そして、先生は「教師というの、生徒の心の成長に目を向けつづける気持ちさえあれば、むしろ隙があるほうが

「開かれた法政21」

法政大学評議員会報告

法政大学評議員・同窓会会長 大石 勝康

平成八年九月一日付で法政大学評議員を委嘱され、一年半を経過いたしました。初会議において同期の畠山圭司君と共々卒業生評議員会議長を仰せ付かり、おかげさまで評議員の皆様のご協力により、今日まで円滑な議事運営が行われております。ここに一年半に評議された主な事項を報告いたします。

我が法政大学は一八八〇年に創立されて以来、二〇〇〇年には創立一二〇周年を迎えます。

清成総長は、平成九年を「改

いいんですね」とも言われました。

ムキになれる若い心とヘマを恐れない情熱を、生徒の健全な成長のために、そそぎ続けられればと願いつつ、小川校長をはじめ教職員がこれまで培ったものを大切に、微力ながら、わが法政一中高の発展に力を尽くしていきたいと思えます。

卒業生の皆様の、あたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

革元年」と宣言され、最初に大学組織の見直しをするなど意欲的にスタートいたしました。そして今年、平成十年、21世紀を展望した法政大学のヴィジョンを「開かれた法政21」として、着々と改革が進められております。

◆市ヶ谷再開発

教学改革による二新学部設置にともなう学生増を見越し、今後、十年をかけて図書館のある80年館と学生会館を除いて、市ヶ谷キャンパスを順次建て替えます。その一期工事

がすでに昨年11月に着工しています。地上27階地下4階延三八六〇〇㎡、地上一二二mの高さで総工費二〇〇億円、二〇〇〇年四月の竣工予定です。

◆教学改革

市ヶ谷キャンパスに新学部として「国際文化学部」と「人間環境学部」の設置を昨年度に申請し、受理されており、両学部とも認可がおりますと平成11年から開設されます。これらの学部は、21世紀を目前に控え、国際化・高度情報化・高齢化などが急速に進み、地球環境への配慮など新しい知識の創造が必要とされ、大学の教育研究に対する社会的ニーズの多様化に答えるものです。さらに社会人に向けて昼夜開講や土日開講を構想の中に入れ生涯教育や多様なニーズに応えられるシステムが考えられています。

勿論、この教学改革の中に「大学と付属校の関係のあり方」も重要案件として大きく取り上げられ、これからの法政大学の発展を総合化と多様化の問題として、中、高、大の一貫教育の発展こそが法政大学のレベルを押し上げて行くものでもある、としており

◆卒業生評議員選挙

平成八年六月に行われた新選挙規則による初の選挙は、立候補した者とそのグループだけが関心をもった選挙といわれ「開かれた」とか「全法政」という目的には程遠い結果(投票用紙送付者、十六万七千七百人、投票者・三万一千五百人)でした。大学の対応にも細かい配慮が欠け、本当に一人でも多くの卒業生に参加して貰いたいのか、という疑問を持たせました。現在

こうした結果の反省にたつて「卒業生調査カード」を発行し、各卒業生団体に協力を求めデータの整備を進めております。

来年三月初めには、任期満了にともなう、評議員選挙が行われます。今年十月初めに告示、立候補届出は今年十二月初旬の予定です。どうか一人でも多くの卒業生が棄権することなく投票できるようなみなさんで声を掛け合い、貴重な一票を行使されるようご協力をお願いいたします。

'98同窓会クラス委員総会開催のお知らせ

平成十年度のクラス委員総会を左記のように開催いたします。ぜひご出席をお願いいたします。

- ◎日時・平成十年六月三日(水)午後六時半開会
- ◎場所・アルカディア市ヶ谷(私学会館)

千代田区九段北四ノ二ノ二五
電話03(3261)9921

- ◎会費・三千円(当日受付・夕食用意します)
- ◎議題・平成九年度事業報告、決算書の件
- ◎その他
- ◎委員の方は、同封の出欠ハガキを折り返し、必ずご投函願います。

平成九年度同窓会 クラス委員総会開催

平成九年度の委員総会は、同年六月四日、アルカディア市ヶ谷にて開催されました。当日は名誉会長の小川校長先生、新事務長の石井平八先生にもご出席いただき、大石会長以下、総計43人が参加され、左記事項の報告、提案が行われました。

- 一、平成八年度事業報告
- 二、決算報告
- 三、監査報告



写真 平成九年度委員総会

- 四、平成九年度事業計画
- 五、予算案
- 六、同窓会名簿作成の件
- 七、テレホンカード作成の件

第五十回 プラタナス祭を終えて

文化祭担当教員 小川 太朗

昨年、十月四日(土)・五日(日)の二日間に亘り、第五十回プラタナス祭・文化祭が開催されました。開催中、一時は雨にたたられたものの、大きな事故もなく無事終了することができました。

今年度の文化祭は、記念すべき五十回目ということで、生徒の文化祭実行委員会は今



などが審議され、すべての議案が可決承認されました。決算書、予算案は本面下部に掲示されています。また、八年度事業報告は会報(前号22号)にてお知らせの通りです。なお、九年度の事業報告は次号に発表となりますので、ご了承下さい。

法政一高同窓会・平成8年度収支決算書

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
繰越金	5,564,446	経常費	1,415,000
会費	3,390,000	(イ) 学校協力費	250,000
(イ) 入会金	870,000	(ロ) 会議費	400,000
(ロ) 新入会費	580,000	(ハ) 組織活動費	100,000
(ハ) 年会費・寄付	1,700,000	(ニ) 印刷費	50,000
(ニ) その他会費	240,000	(ホ) 通信費	200,000
雑収入	80,000	(ヘ) 人件費	345,000
繰入金	3,000,000	(ト) 事務用品費	20,000
繰入金	3,000,000	(チ) 雑費	50,000
計	12,034,446	事業費	5,600,000
		(イ) 会報発行費	2,200,000
		(ロ) 委員総会費	400,000
		(ハ) 総会費	3,000,000
		予備費	300,000
		予備費	300,000
		小計	7,315,000
		次年度繰越金	4,719,446
		合計	12,034,446

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
繰越金	5,777,917	経常費	2,115,000
会費	3,230,000	事業費	2,300,000
雑収入	50,000	予備費	300,000
繰入金	300,000	小計	4,715,000
計	9,357,917	次年度繰越金	4,642,917
		合計	9,357,917

平成9年度収支予算書(案)

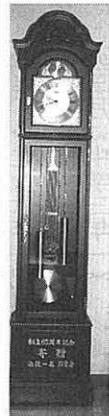
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
繰越金	5,777,917	経常費	2,115,000
会費	3,230,000	事業費	2,300,000
雑収入	50,000	予備費	300,000
繰入金	300,000	小計	4,715,000
計	9,357,917	次年度繰越金	4,642,917
		合計	9,357,917

が、とても新鮮に感じました。来年度も、中庭のプラタナスの葉が静かに散り始めるころ、文化祭が開催されます。同窓生の皆さまに来校していただき、生徒達の活動を見ていただければ、彼らの励みとなることでしょう。

同窓会(高50期) クラス委員一覧

級委員	1組	2組	3組	4組	5組	6組
級委員	黒葛原史洋	西原口晋也	浦田晋介	角田真之	浅井芳隆	平澤一憲
同	青野祥人	高橋行広	木村成孝	小森拓麻	同	同
同	同	同	同	同	同	同

うご協力をお願いします。残念ながら、期によってはわずかに数人の方しか住所が確認されていない場合が多数あります。いつも全員の情報がかかるようにしておかれるようお願いいたします。



母校の永遠を祈って時を刻む...

新・旧校長先生 歓送迎会

四団体共同で開催さる

本年三月末をもって定年によりご退職された小川純一郎前校長先生の送別と、新校長の山上英男先生の歓迎を併せた会が、四月十一日午後七時から吉祥寺第一ホテルにて開催されました。(左写真)



この会は、PTA・PTA・PTA・OB会・教養文化講座・同窓会の四団体共催という形式で行われ、合計一三人の方が出席しました。会はPTA会長挨拶、両校長先生のご紹介、乾杯とすすみ、同窓会会長挨拶、PTA・OB会会長の挨拶、小川、山上両校長の挨拶で歓談に入り、記念品贈呈、校歌

斉唱で閉会となりました。当日、同窓会からは大石会

教職員人事異動

運営委員会代表 森田 勉

退職教員

春は、学校におきましては別れの季節です。小川校長先生をはじめ、今年度は4人の先生方が退職されます。

ここ数年、教員の年齢層が低くなり、ベテランの先生方の退職は寂しい限りですが、全教員のエネルギーを結集させて学校発展のために尽力することが、残された者の務めと心得て頑張つていきたいと考えております。

以下、退職される先生方のモットーとされていた言葉を中心に紹介致します。

小川純一郎先生



一九五七年から長く数学の教師として勤められ、一九九

長以下、各役員(15人)が出席しましたが、小川先生のご退職を知って先生が担任された同窓会員(20数人)も駆けつけ、先生と別れを惜しんでいたのが印象的でした。(黒澤)

〇年に副校長に就任、その後一九九三年より五年間校長として四一年間の在職期間を無事全うされ、めでたく定年退職をお迎えになりました。

小川先生の授業を通して、数学が得意になられた同窓会諸兄も多いと聞いております。校長職に就かれてからは、生徒を原点におき、生徒・父母・教職員の相互の信頼関係が大切であることを強調されておりました。この点、しっかりと胸に刻んでおきたいものです。

遠山親雄先生(国語)



法政大学文学部日本文学科を卒業後、一九五九年に本校に就任され、三九年間勤めら

れ定年退職されました。国語教育ばかりでなく、生活指導分野におかれましても識見をおもちでいらつしやいました。

先生ご自身は、生徒から学べない教師は堕落するだけであるというお考えで、生徒たちが自分にとっての教師であることをモットーに教育活動に専念されてこられました。

「生徒の声に耳を傾ける」ことを大切にしてほしいというお言葉を私たちに残されました。

木村勇三先生(音楽)



法政一中・一高から武蔵野音楽大学へ進まれ音楽学部声楽科を卒業後、一九六三年より三五年間勤務され、この年度定年退職されました。

長く音楽の教師として、また担任として卒業生も多く送り出しています。この三月までも担任を務められ、まさしく「定年のその日まで担任」を全うしていただきました。

お若い頃はかなり直線的であった、とはご自身の弁ですが、長い経験の中で「温かく、

厳しく、粘り強く、そして時間をかけて育てること」が一番大事であるという教訓を伝授していただきました。

窪寺ゆり子先生(英語)



立教大学文学部英米文学科を卒業、私立嘉悦女子中学高等学校専任教員を経て、一九九二年から本校に勤務されてこられました。が、一身上の都合で退職されました。

中学の担任、中学英語研究部、高校硬式テニス部の顧問や生徒委員会と、多忙な六年間を苦勞をいとわずこなしてこられ、この三月に中学三年生の担任として卒業生を送り出しました。

自分がどんなに忙しいときでも、爽やかな笑顔で生徒に接し、常に生徒の立場に立つて考えることを心掛けていらつしやいました。

新任教員

別れの次には、また素晴らしい出会いがやってくるのが春のよさでもあります。

今年度もまた、四名の優秀なフレッシュマンを迎えるこ

とになりました。お名前と出身大学を紹介いたします。

岩井 歩先生(国語) 明治大学卒

矢内 祐介先生(社会) 立教大学卒

挟間 玲枝先生(英語) 東京学芸大学卒

小林 秀年先生(音楽) 国立音楽大学卒

職員人事異動

◎教務係の外山亜貴子さんが、大学の学務部・学務第一課、経営学部係という大学の中心部局へ転出されました。

◎新入職員の長井友香さんが、学事全般を担う教務課へ配属されました。

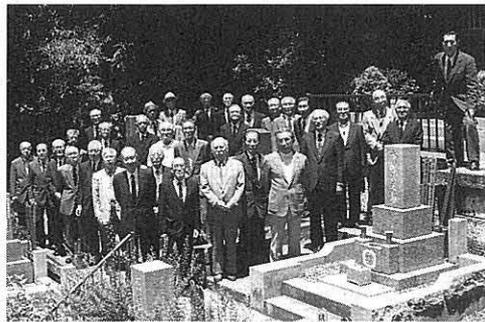
へお二人とも本年四月より

年会費お振込み お礼とお願い

平成九年三月より本年三月末までにお振込みいただいた同窓会年会費は一、一五〇人の方から、二八六万円となっております。お振込みありがとうございます。

なお、本年度もよろしくお願ひ申し上げます。(同封の振替用紙をご利用下さい)

各会だより(同期会)



旧制商業一〇四期 有志の方で有賀先生 生の法要を営む

私も旧制商業の一〇四期有志では毎年、在学当時の恩師有賀定三先生の遺徳を偲んで鎌倉市の瑞泉寺で法要を営んでいます。今回は昨年六月五日、同寺において50回忌法要となり合計33人の同窓生が集まりました。右写真は私が撮ったのですが、一人の方が階段を上がれず写っておりません。申し訳ないことをいたしました。来年以降も六月五日(曜日に関係なく)午後2時より同寺にて法要、追悼会を開催する予定です。多く

の方のご参加をお待ちします。

(二期、中村重吉 電話〇四二二一三三一九一四〇)

高校3期・同期会

高校3期ではここ数年、連続して一泊旅行を開催しています。昨年は7月13・14日、箱根小涌園で寺本先生をお招きして開催。総計四十人が楽しそうな顔で集まり、飲めや歌えの大はしゃぎ。65歳という年齢も忘れて青春時代にタイムスリップ。また今年も開く予定です。☎(二組・黒澤)



高校14期・同期会

昨年5月24日、吉祥寺「庄や」にて知和、清水、竹内の三先生をお招きし33名の同期生が折からの大雨をついて参会した。今井、木藤両君の名幹事は新企画としてコンパニオンが参加。いつも男のみのクラス会が最も人間的な会になった。次回は平成11年5月頃の予定、55歳到達の記念会となる。(5組・田中博)



〈高校14期・3校とも〉

朋友会(中学昭和33年卒)

平成9年の年末12月27日に昭和33年一中卒業の有志による忘年会が、有楽町のニュートーキョー桃杏楼にて開催された。当日は知和、清水(賢)の両先生(当時担任)をお招きし年の瀬の一時を楽しく昔話に打ち興じた。なお本会の会名は清水先生が命名されたもので、法政に通じる友の会



〈朋友会・中学昭和33年卒〉

高校11期2組(八戒会)

という意味で「朋友会」とした。(飯塚・昭和33年中学卒)

第11期2組(塗谷先生担任)「八戒会」は、昨年10月8日銀座「フアゼンダ」で第5回クラス会を開催した。塗谷、清水両先生を囲み27人が年一回の楽しい再会と昔話に花を咲かせた。当会は僅か5年で全員の70%名簿を完備し、毎年出席者が増加している。八戒にちなみ開催日・場所を毎年10月8日・同じ場所に固定した幹事運営が功を奏している。



〈高校11期(八戒会)〉

山岳部OB会 設立さる

昭和20年頃の創部とされる山岳部のOB会がついに設立された。発会は昨年9月26日有楽町のニュートーキョー桃杏楼で開催され、OB約50人が参加するという盛大な会となった。会は一部と二部に分けられ、一部では祝辞、挨拶の後、会則の制定、役員選出、山岳部への部旗贈呈などが行われ、二部では懇親会形式となり各年度部員OBの思い出話などで時を忘れる楽しい会となった。

なお、会長には吉和田康資氏(高校10期卒)が選出され、

新しい同窓会名簿が 発行されます(来年5月)

6年ぶりに同窓会名簿が発行されます。前号より住所不明の方を解明するように努力を続けておりますが、まだ不明の方が多数おります。近く調査カードを発送いたしますので、ご協力下さい。(同窓会名簿編纂担当委員会)



松本節世先生には名誉会長をお引き受け下さることにになりました。山岳部OBの方で今回の発会案内が着信しなかった方は、事務局宛(中野区中央5-10-27、法政一高・山岳部OB会、飯塚善準・電話03-3383-5018)にご連絡下さるようお願いいたします。☎(飯塚・高校14期)

一中・高現況報告

運営委員会代表 森田 勉

このところ教育界を震撼とさせるような暗いニュースばかりが目立ちますが、わが一中・高におきましては、生徒、保護者、教職員が一体となり、積極的に諸活動を展開しております。これも同窓会の皆様が築かれたアットホーム的な伝統があったればこそと、深く感謝しております。以下、本校の現況を簡単に報告させていただきます。

☆山上英男先生が 新校長就任

最もホットなニュースは、

国語の山上英男先生がこの四月、法政大学(一部)への推薦率が85%に拡大されましたが、さらに今年度、総長の諮問により発足した「大学・付属校連携プロジェクト(平成八年六月より平成九年十月まで、本校より牛田、森田が委員として参加)」の答申をもとに、付属校からの有資格者全員の推薦が実現致しました。



加えて、昨年十二月より、「大学・付属校教育連携委員会(本校より石船、森田が委員として参加)」が常設され、有資格者全入時代における、

月より校長先生に就任されたことです。(詳しくは本会報の他の掲載記事にて触れられておりますので、そちらをご参照下さい。)

☆大学推薦 有資格者全入実現

皆様ご承知のように、一昨年、法政大学(一部)への推薦率が85%に拡大されましたが、さらに今年度、総長の諮問により発足した「大学・付属校連携プロジェクト(平成八年六月より平成九年十月まで、本校より牛田、森田が委員として参加)」の答申をもとに、付属校からの有資格者全員の推薦が実現致しました。

大学と付属校との関係をより充実させるため、熱い議論が行われております。その中身が問われるのは当然でありませんが、この委員会が設置されたこと自体が、他大学・他付属校に例を見ないもので、特筆すべきことと思われま

☆ホームカミングデー 予算化

一昨年に行われた創立60周年記念式典のあり、今後の計画の一つとして、ホームカミングデーの実現を掲げました。毎年の開催は無理にしても、皆様の日頃のご支援に対して、少しでも謝意を表したいとの思いで、わずかではございますが、ホームカミングデー予算を計上致しました。

今年度の秋頃実施を目指し、同窓会役員の方々とご相談申し上げたいと考えております。

ゴルフ部

ゴルフ部の誕生は平成元年十月である。それ以前にも部設立申請の声は挙がっていた。その背景に昭和三十二年の現ワールドカップで、日本代表の中村寅吉・小野光一の両選手が優勝したことが大きいと

思われる。その興奮が敏感な少年たちの心を動かしたようである。昭和四十二年に最初の設立趣意書が生徒会に出されたが、時期尚早という理由で見送られた。以後三回にわたって趣意書が出された。したがって部が成立するまでに、二十余年の長い渴望の時期があったのである。

硬式野球部

現部員(一・二年生)十四名、いずれも初心者ばかりである。OB五十五名。その実力は東京連盟加盟校約五十校中、中堅どころといったところでしょうか。練習場(平成六年)は屋上に七打席あり、大きな姿見用鏡(平成八年)を前に毎日打ち込みに励んでいる。

合宿も春夏秋冬の休みを利用して年三回矢板カントリークラブで行い、コースでのレベルアップと、ゴルフの精神を学んでいる。OBや同窓会諸氏の参加と指導を熱望しております。

(顧問 轟木・石船)

えます。戦前はグラウンドもなく、用具も大学野球部のお古を貰って空き地を探しての練習であったようである。当時大学野球部の監督をなさっておられた、藤田信男先生のご厚意によるところが大きかった。

スキー部

初代、一高の部長兼監督であった森田源三先生は次のような言葉を残されています。「かような悪条件のもとで練習を続けていたのは、すべて当時の選手諸君の愛校心と忍耐力の賜物であると固く信じております」と。

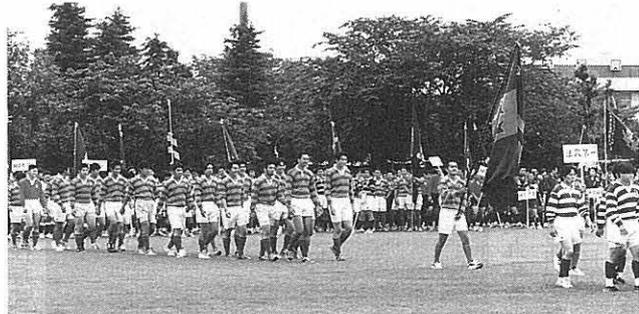
一高野球部の原点は今も昔も変わってはいない。つまり、大学との精神的な強いつながり、同窓会・PTA・OBなど、学内外の大勢の方々の温かい励ましに支えられて今日まで受け継がれてきました。グラウンドにつながるOB六百三十八名。これまで野球部を育ててくださった部長先生六名、監督十四名。母校愛に燃えて後輩の指導に当たった登録されたコーチ十七名。

過去甲子園出場四回の実績を踏まえて、部員二十八名(一・二年生)は、更なる発展に向かって進もうと熱い練習に取り組んでおります。

(顧問 轟木・平岩)

スキー部は、競技スキーを通してスキー技術の向上と基礎技術の習得(SAJバッチテスト)に努めています。日頃の練習では見られない部員の真剣な眼差しを合宿では見ることが出来ます。コースセットもコーチの指導のもと自分たちの手で行ないます。合宿ではタイムも毎日計り、その日のミーティングで発表し校内ランキングをつけてお互いに刺激しあっています。年間2回の合宿があり、12月の合宿は今年も志賀高原で行いました。3月の合宿は母池高原で毎年行っています。年間3回の検定会があり、それに向けて合宿ではポール練習を行なっています。夏休みや、日頃の休みを利用して千葉県のスキードーム「ザウス」を積極的に利用して技術の向上を図っています。その他、普段の練習は屋上でのサッカーや、本校のトレーニング室を利用して筋力トレーニングを行い、スキー競技に必要な筋力、持久力、敏捷性等を養っています。

(顧問 小林(邦)・高山)



ラグビー部

昨年度の一高ラグビー部は年度当初に『花園出場』を目標に掲げ、練習に取り組んできた。その結果、春は関東大会へ出場しブロック優勝。しかし、秋の花園予選では惜しくも準決勝で敗退し、三位という結果に終わった。

一高ラグビー部は昭和二十三年に創部され、今年度で創部五十周年を迎える。ラグビー部の歴史は、今まで携わった歴代の顧問と、その時代を受

継いだ部員一人一人によって築かれたものである。現在、ラグビー人口の減少に伴い、東京都でも十五人制に参加できる学校が年々少なくなってきた。本校も部員確保に苦戦を強いられはいるが、少人数ながら新たな伝統を作り上げるべく、日夜練習に励んでいる。今年度も、感動を与えられるチームを目指し、部員達がラグビーを通じて生涯の友人を得、人との付き合い方、社会における常識、礼儀など多くのことを学んで欲しいと思う。

(顧問 中村・今村)

高校 陸上競技部

高校陸上競技部は、この一年、かつてない充実と新しい息吹を感じています。

昨年度後半、ほとんど練習をサボるといった、前代未聞の状況。まさに風前の灯に近い状態だった昨年度の反省にたち、二人しかいない二年生は相当な努力を積みました。

部長の菊池貞吉君を中心に、新しい一年生が10名を超え元気一杯の活動をしています。特に一年生の資質は目覚まし

美術部

く、デビュー戦である学年別選手権大会(6月)でも、半数が決勝大会に進みました。おそらく、来年度の大会では、都大会には進めそうです。どうぞご期待ください。

(顧問 山崎)

長い歴史あるクラブですが部員数の変動が激しく、二名という、存亡にかかわる時もありました。現在は二十名近い部員を擁しますが、放課後実際に集まってくるのは七、八名というところです。

これまで、部員の中に美術系大学をめざす者がいた時は部活も充実しており、文化祭に多くの力作を出し、また卒業制作を描き残していきまし

た。一階の廊下にある油絵大作はその頃のものです。また、部員の結束の強い時は、夏休みにスケッチ旅行として、伊豆大島・八丈島・会津・信州などへの合宿に行き

ました。昼は水彩画や油彩画のスケッチ、また水泳や美術館めぐり、ついでに味めぐり、夜は花火と肝試しなど、楽しい夏休みを過ごしたことが嬉しい思い出です。

しかし最近では法政大学進学が難しく、部活に緊張感がありません。また趣味の多様化のため、写真部・無線部・マンガアニメ部と兼部する者が多く、部屋も半分は油絵制作の場、半分は情報交換と歓談の場となっています。

活動の場所と時間が、以前よりゆとりができたのですから、これから大いに活動して欲しいと思います。また私立中高美術連盟展で、毎年受賞者を出していることを報告しておきます。(顧問 斉藤)

高校

マンガ・アニメ部

僕たちの日常活動は、部員個々人が、イラストやストーリー・マンガを自宅で描いて、それを持ち寄り批評しあっているが、一番力を入れているのはコミケへ出品する冊子を共同製作することである。

通称「コミケ」は二十七年続いているアマチュアのコミック・マーケットで、しば

25年ぶり二度目の 大学日本一に！ 法大アメフト部

このところ、四年連続で関東大学リーグ戦を制し、甲子園ボウル(大学アメリカンフットボール日本一決定戦)に出場していた法大アメリカンフットボール部(チーム名・トマホークス)が、ついに25年ぶりに二度目の大学日本一の座についた。

三年連続して関西勢に惜敗していたトマホークスは、昨年十二月二十日、関西代表の関西学院大と日本一を賭けて激突、宿願の優勝。大学日本一となった。

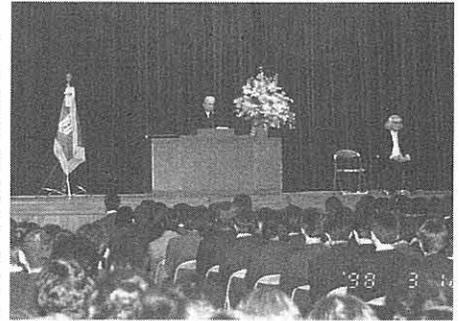
三季ぶり優勝！ 六大学野球

山中監督率いる法大野球部は、昨年の秋期リーグ戦で三季ぶりに優勝。しかも九年ぶりの完全優勝(勝点5)というすばらしい成績を上げ最多優勝記録も37回と伸ばした。

今年三月に米国で合宿を行い、そこで得たものを日本の大学野球全体のレベルアップに役立てたいとのこと。神戸へ応援に行きましよう！

〈本欄?記事とも文・黒澤〉

高校50期・卒業証書授与式



歓迎！ 高校50期卒 278人の方が新入会

一九九七年度(平成九年)の高校50期生、卒業証書授与式は三月十二日に高校体育館講堂で行われ、二七八人の方たちが晴れて卒業されました。同窓会ではお祝いとともに、皆さんの入会を大歓迎いたします。

同式には大石同窓会会長、鈴木副会長、黒澤委員長の三人が出席、

表1. 平成10年度 中・高入試状況

	募集定員	志願者数	合格者数
中	105名	639名	200名
高	156名	推薦入試	45名
		一般入試	44名
		A, Cコース	160名
		B, 特コース	219名
		計	424名
			221名

表2. 法政大学学部別進学者数 (平成10年3月卒業生)

学部・学科	1部		2部		計
	1	2	1	2	
法政	32	4	50	5	55
	18	1	1	1	
文	6	1	1	1	36
	8	1	1	1	
	6	1	1	1	
	6	1	1	1	
	5	1	1	1	
教	-	-	3	-	

経済	27	1	4	31
商	-	27	3	3
社会政策	16	3	3	36
社会	17	-	-	-
経営	50	50	-	50
機械工学	12	-	-	-
物質化学	4	-	-	-
電気電子	5	-	-	-
電子情報	8	-	-	-
システム制御	6	-	-	-
土木工学	3	-	-	-
建築	6	-	-	-
経営工学	4	-	-	-
計	239	17	256	
推薦率	86.3%	6.1%	92.4%	

平成10年度の入学試験は、一月二十二日の高校推薦入試をはじめとし、二月三日の中学入試、二月十日の高校一般入試とすべて無事に終了することができました。今年度は、高校の推薦入試の基準を広げ、多くの法政希望者が入学しやすい制度に変更して行いました。おかげさまで本校を強く希望する44名の優秀な生徒が推薦入試で入学してきます(表1)。中学入試や高校一般入試におきましても、就学者人口の減少は続いているものの志願者数は前年並であり、本校を第一希望と強く願っている生徒はまだま

大石会長が祝辞を述べました。新入会の皆さんは会員として同窓会の会合、事業などに積極的に参加され、同窓会を通じて母校の発展にご協力下さるようお願いいたします。 「法政ファン」をもつと... 一中・高入学試験を終えて 入試委員会代表 小林 邦久

同窓会事務局の直村さんが昨年未だ退職されました。長年の正確な業務に厚くお礼申し上げます。後任は工藤祐美さんです。よろしくお願いたします。毎回のお願いですが次の点につきましてご協力

同窓会事務局からのお知らせ

をお願いたします。一、住所を変更された場合は、直ちにご連絡下さい。FAX (0422-21-4633) かハガキでお願いします。二、年会費の領収書は振替用紙の右半片をご代用下さい。

だ数多くいます。今年には特に「法政のPR」と「第一希望の受験生を大切にしたい生徒募集」を心がけた活動ができました。また、今年度から法政大学一部への推薦は有資格者(評定平均6)全員となり、推薦率は86%となり(表2)、益々中・高・大の十年間で考える「法政」が確立してきたといえます。これもひとえに、同窓生の皆様によって築かれた実績とご努力の表れだと確信し、たいへん感謝しております。

ところで、今年度の入試委員は4月当初から、「本校のPR」を意識した活動をするともに、いかにして本校を希望する生徒を確保するかということを考えてきました。入試説明会などで学校紹介を積極的にを行い、少しでも多くの法政ファンをつくることを心がけてきました。しかし、法

政の「自由でアットホームな教育」や「積極的に活動していける雰囲気」をまだまだ充分理解していただけていないように感じられます。そこで、来年度はさらに法政OBのみなさんを意識した「法政PR」や「入試改革」を行っていきたいと思っています。

編集後記

社会の大きな変動に合わせるように昨年からの気象までも異常な徴候が現れて来ましたが、それでも春は巡り来て今年も卒業、入学の式典に参加しました。一中・高の生徒たちを見た時、なぜか心からほっとしました。この一年余り中・高校生に対する社会の目は、恐ろしい獣でも見るような感じではなかったでしょう。たしかに幼児や友人、先輩までを殺傷したり、いじめ、オヤジ狩りなどの暗い報道ばかりが続きましたが、少なくとも私が見た一中・高の生徒たちは、希望に目を輝かせ、友人たちと心から打ちとけている明るい笑顔の生徒ばかりでした。このことが私をほっとさせたのだと思います。この爽やかな生徒を育てて指導下さった小川先生が定年で退職されます。「夢と目標を持つて努力を続け、一人立ちできる人間になって欲しい」という先生の教育が必ず実り、全員、次世紀をなう明るい力強い青年に育つことでしょう。同窓会も母校の永遠の発展という夢を持って活動していきたいものです。(黒澤)